様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 １５ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｈ０３１９１

研究課題名（和文）現代フランス文芸における「南仏」・「地中海」というトポスに関する包括的研究

研究課題名（英文）Comprehensive studies on "the South of France" and "the mediterranean area" in French art and literature

研究代表者
桑田　光平（KUWADA, KOHEI）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：８０５７０６３９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　6,800,000円

研究成果の概要（和文）：　19世紀後半から現代にいたるまで、「南フランス」ならびに広く「地中海」という場所が、世界文化の中心地の一つである近代都市パリとの文化的・社会的・政治的な意味における緊張関係の中で豊かな文学・芸術作品を生み出してきたことを確認した。フランス文芸におけるモダニティ（近代）は、一枚岩的な都市文化ではなく、むしろそれに対する抵抗、回避、相互作用などの多様な仕方で展開された複数形のモダニティであることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　現代フランス文学・芸術研究において、これまで「地方」や「地域」という視点から研究が行われたことは極めて少なく、行われたとしても対象地域の独自性やローカル性を明らかにするものであった。モダン都市ないしモダニティの首都と呼ばれるパリとの関係、さらには、植民地であったマグレブ諸国や近隣の地中海地域との関係を視野に入れることで、南仏や地中海沿岸地域がもつ複数のポテンシャルとその創造的なダイナミズムを確認することができた。

研究成果の概要（英文）：　This research confirms that from the second half of the 19th century to present days, “Southern France” and "Mediterranean areas" have produced rich works of literature and works of art in a cultural, social and political tension with modern city Paris, which is one of the centers of world culture. Modernity in French literature and art does not mean a monolithic urban culture, but rather plural forms of modernity developed in various ways such as resistance, avoidance, and interaction.

研究分野：ヨーロッパ文学

キーワード：フランス文学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

(1) 数年にわたってシュルレアリスム以降のフランス現代詩と造形芸術を研究する過程で、雑誌『レフェメール』に寄稿した作家たちの多くが、パリという現代芸術の中心地から意図的に離れて活動をしていたことの重要性を認識するに至った。パリがあらゆる意味で特権的な場所であり続けたシュルレアリスムとは異なり、戦後フランス文芸における重要な作家たちがパリという中心から離れ、パリとの緊張関係をひとつの創作条件としていた例は枚挙に暇がない。しかし、そのような観点からの作家・作品研究は極めて少なかった。

(2) その後、シュルレアリスム以降ではなく、モダン都市パリの成立したオスマン計画以後というパースペクティヴで考えるほうが、すなわち、「モダニティ」の成立との関係からこの問題を考えるほうがより豊かな研究になることが予測された。

(3) 地域に関しては、特に多くの作家たちが生活や創作の拠点とした「南仏」と、そこから少し広げてイタリア、スペインを含む地中海世界に焦点を当てることにした。アンフォルメル芸術のアントニ・タピエスや、シュルレアリスム運動に参加しそこから逸脱していったホアン・ミロ、サルバドール・ダリといったスペインの芸術家たち、そして、そうしたスペイン芸術から多くの着想を得たクロード・エステバンやジャック・デュパンといった詩人の作品群を考えれば、また、モランディの静物画やイタリア・バロック芸術に傾倒したイヴ・ボヌフォワやフィリップ・ジャコテの詩的営みを考えれば、さらには、地中海に面するアンチーブの光に魅せられた画家ニコラ・ド・スタールとコートダジュールの風を詠じた詩人ルネ・シャールの共同作業に目をやれば、南仏という一国の地域を超えて広がる大きな地中海世界を複数の「モダニティ」を支える光源としても想定できると考えた。

２．研究の目的

本研究では、歴史的に見て、長い間、世界の文芸の中心であった「モデルニテの首都」パリを相対化するような、豊かな「南仏」の文学・芸術運動を複数の「モデルニテ」の可能性として検討する。自然、光、伝統と向き合い、都市文化や資本の論理とは一線を画する形で発展した複数形の現代フランス文芸の特性を包括的に捉えることが本研究の目的である。個別の作家や美術史・文学史にすでに名を残している既存の芸術運動を対象とするのではなく、戦後フランスの文芸を南仏の自然や光、そして地中海文化を背景としたもうひとつの（あるいは、複数の異なる）「モデルニテ」の可能性として包括的に考察・検証する。

３．研究の方法

すでに十分研究されてきた 19 世紀以降の文芸におけるパリの表象と、パリという場所の特異性とをボードレールやゾラからシュルレアリスムにいたるまで再検討することから出発し、シュルレアリスム運動から逸脱する作家・芸術家たち――シャール、ダリ、ミロ、ミショーなど――、あるいはポスト・シュルレアリスムといえる作家・芸術家たち――ジャコテ、デュブーシェ、アンフォルメルの画家たちなど――がパリとどのような距離をとり、南仏や地中海に何を求めたのかを作品分析や現地での資料調査を通して検討する。さらに、パリで活動を続けながら、南仏をはじめとする地方やイタリア、スペインの

地中海世界の文芸から多くを汲み取った詩人たち――ボヌフォワ、エステバン、デュパンなど――が、パリ的な「モデルニテ」に対して、どのような「モデルニテ」を確立しようとしたのかを当時の政治的・社会的状況との関係も考慮に入れながら検討する。上述の作家たちが強い影響を受けたセザンヌ、マティス、ボナールなどの先行世代が南仏や地中海の自然や光をどのように表象したのかを分析し、ニース派、シュポール／シュルファス、フルクサスなどの南仏に拠点を置いたフランス現代美術の潮流を、現地での資料調査を行いつつ、西欧美術史の中に位置づける。そして、以上の方法によって得られた成果を総括し、従来の「モデルニテ」解釈の再検討を目指す。

４．研究成果

文献資料調査、海外・国内の連携研究者・研究協力者らとの研究会、サン＝ポール・ド・ヴァンス、ビオット、ニース、グリニャンなど南仏の文学・芸術運動の拠点となった村や街での調査、美術館訪問・芸術家訪問により、本研究ならでは成果を得ることができた。具体的には、フィリップ・ジャコテに関する研究発表（「〈声〉の密やかな交換：フィリップ・ジャコテについて」、2016 年 3 月）、ジャコテ本人へのインタビューをもとにして書いた論考（「果樹園を探して――フィリップ・ジャコテ訪問記」、2018 年 5 月）、講演「ジャコメッティと詩人たち」などにより、「翻訳」と「散策」という営みによって、南仏という文学的トポスが成立していることを明らかにした。また論考「ピエール・ルヴェルディのノート」では、パリから北西部の街に隠遁し孤独のなかで文学的営みを続けた作家が、逆説的にも、出身地である南仏の光を想起し続けるために、敢えて南仏を離れたことを明らかにした。そこからルヴェルディに関わらず、多くの画家・作家が「南仏」というトポスを一つのモダニティの「光源」としていたという仮説を立てることができ、この仮説からフランス現代美術について再検討を行った（論考「フランス現代アート雑感」、2018 年 3 月）。その「南仏」をフランス近代文芸のひとつの「光源」としてとらえる観点は、「南仏」が「地中海」という豊かな文化圏に属していることを抜きに考えられない。レオパルディやモンターレらイタリアの詩人たちの作品分析も行いながら「地中海」文化に関する理解を深めた。地中海沿岸の南仏都市で活動した Groupe Espace の建築・芸術・文学の綜合的なユートピア構想は、高度に発達したパリのような都市では不可能であり、「地中海」の物質的・文化的な豊かさを基盤にしたものだった。

本研究はヨーロッパ中心的な視点から「南仏」・「地中海」文化に取り組んできたが、より包括的な研究を行うためには、少なくともマグレブ諸国の文化圏まで研究対象に含めるべきだったというのが大きな反省点であるといえる。最終年度には、新たな研究協力者とともにマグレブ文芸について取り組んだ上で、フランスその他ヨーロッパ諸国との交流・接触・衝突について研究を行い、海外・国内の研究協力者に研究発表を行ったもらったが、今後、この視点からさらなる研究を進めていく必要があるだろう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計13件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 桑田光平	４．巻 1
２．論文標題 果樹園を探して――フィリップ・ジャコテ訪問記	５．発行年 2018年
３．雑誌名 午前四時のブルー	６．最初と最後の頁 50-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 桑田光平	４．巻 40(9)
２．論文標題 喪失と再生 ： パスカル・キニャールの文学	５．発行年 2018年
３．雑誌名 すばる	６．最初と最後の頁 274-280
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kohei KUWADA	４．巻 4
２．論文標題 L ’ inquietante quotidiennete : le motif de l ’ eau dans l ’ oeuvre de Pascal Quignard	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Littera	６．最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.20634/littera.4.0_39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 桑田光平	４．巻 60(4)
２．論文標題 二〇一〇年代の野村喜和夫	５．発行年 2017年
３．雑誌名 現代詩手帖	６．最初と最後の頁 90-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 桑田光平	4．巻 302
2．論文標題 フランス現代アート雑感	5．発行年 2018年
3．雑誌名 中央評論	6．最初と最後の頁 57-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松浦寿夫	4．巻 11
2．論文標題 貧しさについて ： 池野絢子『アルテ・ポーヴェラ ： 戦後イタリアにおける芸術・生・政治』書評	5．発行年 2017年
3．雑誌名 表象	6．最初と最後の頁 252-255
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林康夫	4．巻 587
2．論文標題 星形の庭の明るい夢(1970-1989) ： オペラ戦後文化論Ⅱ(5)	5．発行年 2017年
3．雑誌名 未来	6．最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林康夫	4．巻 588
2．論文標題 星形の庭の明るい夢(1970-1989) ： オペラ戦後文化論Ⅱ(6)	5．発行年 2017年
3．雑誌名 未来	6．最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林康夫	4．巻 589
2．論文標題 星形の庭の明るい夢(1970-1989) ： オペラ戦後文化論Ⅱ(7)	5．発行年 2017年
3．雑誌名 未来	6．最初と最後の頁 2-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林康夫	4．巻 4
2．論文標題 ジャコメッティ展 「アルベルト・ジャコメッティ広場」への夢想	5．発行年 2017年
3．雑誌名 NACT review : bulletin of the National Art Center, Tokyo : 国立新美術館研究紀要	6．最初と最後の頁 190-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林康夫	4．巻 590
2．論文標題 星形の庭の明るい夢(1970-1989) ： オペラ戦後文化論Ⅱ(8)	5．発行年 2018年
3．雑誌名 未来	6．最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kohei Kuwada	4．巻 1
2．論文標題 La betise me fascine -- Quelques remarques sur L'Empire des signes	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Littera	6．最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20634/littera.1.0_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 桑田光平	４．巻 4
２．論文標題 Hic et nuncの詩学――ボヌフォワとジャコメッティ（３）	５．発行年 2016年
３．雑誌名 Art Trace Press	６．最初と最後の頁 214-219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　4件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 桑田光平
２．発表標題 ジャコメッティと詩人たち
３．学会等名 国立新美術館『ジャコメッティ展』関連企画（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Mariko Muramatsu
２．発表標題 Tradurre Leopardi da lontano（レオパルディの翻訳の問題と距離について）
３．学会等名 レオパルディ研究国際学会「２０世紀文化におけるレオパルディ- 方法と文体としての系譜」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 桑田光平
２．発表標題 白、エクリチュールの色――バルトとデュラス
３．学会等名 日本フランス語フランス文学会全国大会ワークショップ「マルグリット・デュラス没後20周年――21世紀におけるデュラス」
４．発表年 2016年

１．発表者名 Kohei Kuwada, Kazuhiko Suzuki
２．発表標題 Lettres japonaises
３．学会等名 国際シンポジウム「ジェラール・マセの世界」（フランス、グルノーブル大学）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Hisano Shindo
２．発表標題 La Main a plume, groupe surrealiste sous l'Occupation --la reorganisation des mouvements d'avant-garde apres la seconde guerre mondiale
３．学会等名 国際シンポジウム"Images of 20th century wars: from Cubism to Surrealism"（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 本田貴久
２．発表標題 ２０世紀文学と夢
３．学会等名 日本フランス語フランス文学会関東支部大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Mariko Muramatsu
２．発表標題 La conoscenza della letteratura italiana in Giappone da Dante a D’Annunzio e Tabucchi
３．学会等名 日伊修好１５０周年記念国際シンポジウム「イタリアと日本、影響と交流．歴史、文学、食からファッション芸術まで」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 桑田光平
２．発表標題 「〈声〉の密やかな交換：フィリップ・ジャコテについて」
３．学会等名 モダニズム研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 寺田寅彦
２．発表標題 『ゾラ歿後十年と日本近代文学』合評会への応答
３．学会等名 東大比較文学会
４．発表年 2015年

〔図書〕　計7件

１．著者名 東京大学教養学部	４．発行年 2017年
２．出版社 白水社	５．総ページ数 270（担当:190～201）
３．書名 分断された時代を生きる	

１．著者名 Fondation Maeght、Giacometti, Alberto、TBSテレビ、国立新美術館、豊田市美術館、横山 由季子	４．発行年 2017年
２．出版社 TBSテレビ	５．総ページ数 267（担当：178～179）
３．書名 ジャコメッティ展	

１．著者名 荒谷大輔、池松壮太、桑田光平、小長野航太	４．発行年 2018年
２．出版社 せりか書房	５．総ページ数 250（担当：59～76）
３．書名 ラカン『精神分析の四基本概念』解説	

１．著者名 中央大学人文科学研究所	４．発行年 2018年
２．出版社 中央大学出版部	５．総ページ数 308（担当：207～238）
３．書名 『モダニズムを俯瞰する』	

１．著者名 Fabien Arribert-Narce, Kohei Kuwana Lucy O'Meara	４．発行年 2016年
２．出版社 Honore Champion	５．総ページ数 348
３．書名 Receptions de la culture japonaise en France depuis 1945 : Paris-Tokyo-Paris	

１．著者名 都甲 幸治、藤井 光、谷崎 由依、阿部 賢一、阿部 公彦、倉本 さおり、中村 和恵、宮下 遼、武田 将明、瀧井 朝世、石井 千湖、江南 亜美子、藤野 可織、桑田 光平	４．発行年 2016年
２．出版社 立東舎	５．総ページ数 256
３．書名 世界の８大文学賞 受賞作から読み解く現代小説の今	

１．著者名 塚本 昌則、鈴木 雅雄	４．発行年 2017年
２．出版社 平凡社	５．総ページ数 590
３．書名 声と文学（桑田光平「消えゆく声――ロラン・バルト」、44-73頁）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	コスト　クロード (Coste Claude)		
研究協力者	ドゥヴォス　パトリック (De Vos Patrick)		
研究協力者	ブーラービ　リダ (Boulaabi Ridha)		
連携研究者	進藤　久乃 (Shindo Hisano) (40613922)	松山大学・経営学部・准教授 (36301)	
連携研究者	小林　康夫 (Kobayashi Yasuo) (60153623)	青山学院大学・総合文化政策研究科・特任教授 (32601)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
連携研究者	松浦　寿夫 (Matsuura Hisao) (60219384)	武蔵野美術大学・造形学部・教授 (32681)	
連携研究者	本田　貴久 (Honda Takahisa) (50610292)	中央大学・経済学部・准教授 (32641)	
連携研究者	村松　真理子 (Muramatsu Mariko) (80262062)	東京大学・総合文化研究科・教授 (12601)	
連携研究者	寺田　寅彦 (Terada Torahiko) (30554456)	東京大学・総合文化研究科・教授 (12601)	